

月城結衣の親密度における、マナ抽出量の変化

怪人協会 抽出管理棟 2F担当研究員：アキラ（筆者）

要約 (Abstract)

本研究は、被検体A-03「月城結衣」（銀髪・月光の妖精）に対する継続的な心理的接近および親密度の構築が、強制抽出プロセスにおけるマナ回収効率と被検体の身体的負荷に与える影響を検証したものである。従来の強制拘束および機械的絶頂誘導による抽出方法では、被検体の強い抗拒感によりマナの爆発的放出（いわゆるジャックポット）の生起確率が低く、かつ研究員の体力消耗や被検体の肉体疲弊が著しいという問題が存在した。

筆者（アキラ）による長期間の個別の愛撫、精神的口説き、催眠を用いた自慰強要、および直接的性行為を通じた親密度向上プロセスを実施した結果、被検体は自律的に絶頂を受け入れ、マナの最高純度（S+）維持および時間あたり抽出量の飛躍的増大が観察された。これにより、研究員の勤務リソース節約と被検体の余命・限界精度の正確な測定が可能となった。

1. 背景 (Background)

マナ抽出管理棟における従来の業務フローでは、魔法少女に対する肉体拘束および過酷な絶頂誘導装置の高出力稼働が主流であった。しかしながら、被検体A-03「月城結衣」は元来の感応度が極めて高い（極高）にもかかわらず、精神的な閉鎖性と無感情な防衛反応により、通常時のマナ放出量が最下位（D〜Cランク相当）に低迷するという課題を抱えていた。一度防衛が崩壊した際には膨大なマナが放出される性質を持つものの、その状態へ至らせるまでに研究員が多大な体力と時間を消費し、過度な暴動対策や機器のメンテナンスに追われるという不利益が生じていた。

また、過度な強制暴力による抽出は被検体の肉体に不可逆的な過熱損傷（マナ回路の焼き切れ）を引き起こし、解放または処分までの生存可能期間の予測を困難にさせていた。したがって、被検体に敵対心や苦痛を感じさせず、むしろ自発的・協力的に快楽を受け入れさせる「親密度（調教・愛着度）依存型抽出モデル」の確立が急務であった。

2. 目的 (Objective)

本研究の目的は、筆者（アキラ）と被検体月城結衣との間に親密度・服従関係を構築し、段階的な性的刺激（執拗な愛撫、心理的口説き、催眠を用いた自慰強要、および陰茎挿入による直接交わり）を付与した際の、マナ抽出量および絶頂頻度の相関関係を明らかにすることである。さらに、被検体の身体的負担の低減度合いを計測し、最長稼働期間および解放判断の客観的指標を樹立することを目指す。

3. 方法 (Methods)

実験は2F抽出棟A区域にて、一定期間にわたり実施された。筆者は以下の段階的アプローチにより被検体へ性的・精神的攻勢を行った。

第一段階として、非抽出時間帯における継続的な対話と甘言（口説き）により心理的警戒を解除させた。第二段階として、月城の局所的性感帯である足の裏、脇の下、鎖骨、およびアナル周辺に対する指先および舌を用いた執拗かつ緩やかな愛撫を実施した。第三段階として、催眠音声および言語的教導を用い、「自らおまんこを指で広げ、自慰を行わなければ快楽が得られない」という認識を定着させ、自律的自慰を強要した。

第四段階として、筆者の陰茎（おちんちん）を用いた直接的な膣内・アナルへの挿入・結合を実施した。結合時には被検体の表情、呼吸数、膣内の収縮圧力、愛液およびマナの分泌速度をリアルタイムで測定・記録した。

4. 結果（Results）

以下に、筆者による直接アプローチ過程における月城結衣の身体反応、言動、およびマナ抽出データの露骨な生データを記録する。

【実験記録データ：フェーズ1 - 執拗な局所愛撫と口説き】

筆者が月城の薄い鎖骨から脇の下にかけて滑らかな愛撫を施し、耳元で「結衣、気持ちよくなっていいんだよ」と優しく囁くと、被検体は無表情を保とうとしながらも、耳たぶを真っ赤に染めて視線を泳がせた。足の裏およびアナル周辺へ微細な振動を与える玩具を当てがいつつ指先で優しく擦ると、彼女の身体は「く、ん……あ……つ、けて……」と小さな吐息を漏らし、膣口から粘度の高い澄んだ愛液（おまんこ汁）が溢れ出た。この時点でマナ抽出パイプラインのメーターが急激に上昇を開始した。

【実験記録データ：フェーズ2 - 催眠による自慰強要】

「自分でおまんこを開いて、奥まで指を入れなさい」という催眠命令を下すと、月城は潤んだ薄紫色の瞳で筆者を見つめ返しながら、震える細い指先で自らの小さな膣唇を左右に押し開いた。「あ、あ……アキラさん……見て……私のおまんこ、くちゅくちゅ言ってる……」と自ら卑猥な言葉を口にし、中指を膣奥の子宮口まで深々と挿入。くちゅ、びちゃびちゃと激しい摩擦音を室内に響かせながら、背中を大きく反らせて最初の爆発的絶頂を迎えた。マナ純度は即座にSランクへ到達。

【実験記録データ：フェーズ3 - 陰茎（おちんちん）挿入による結合と絶頂】

筆者の勃起した陰茎を月城の濡れそぼった膣口に押し当て、ゆっくりと根元までずっぽりと突き入れると、彼女は「ひゃうああっ！？ おちんちん、お腹の奥まで……熱い……っ！」と叫び、全身の筋肉を激しく痙攣させた。内壁が陰茎を締め付ける圧力は通常時の3.5倍を記録。筆者が腰を揺らし、密着した状態で繰り返し子宮口を突くたび、月城は「あっ、ぐ……んうっ！ アキラさんの、すごくいい……おまんこ、壊れちゃう……あっ、イク、またイッちゃうう！」と乱れた喘ぎ声を上げ、連続して絶頂に達した。体液（愛液と潮）が勢いよく吹き出し、タンクへのマナ流入量は規定限界値（120%）を突破した。

手法 / 接触段階	被検体の心拍数 (bpm)	絶頂回数 / 時間	マナ純度	時間あたり抽出量 (%)
初期（機械的拘束抽出）	95 - 110	0.5 回 / h	B ~ A	15% / h
愛撫・口説き（親密化）	120 - 135	2.0 回 / h	A+	45% / h
催眠自慰強要	140 - 160	4.5 回 / h	S	85% / h
陰茎結合（直接交わり）	165 - 190	8.0 回以上 / h	S+	150%（限界突破）

5. 結論 (Conclusion)

本実験結果より、月城結衣に対する「親密度向上および愛着に基づく性的開発」は、マナ抽出効率を劇的に向上させることが立証された。機械的拘束下での反抗的な拒絶状態と比較し、筆者（アキラ）への好意と快樂の受け入れに伴う肉体反応（膣の強烈な締め付け、連続絶頂、分泌液の増大）は、マナ純度を最高ランク（S+）へと高め、目標割当量を短時間で達成することを可能にした。

学術的・実用的な意義として、第一に、被検体が自ら快樂を求めて絶頂に至るため、研究員側の過度な抑圧・強制リソースが不要となり、労働負荷が大幅に軽減された点があげられる。第二に、強制拷問に伴うマナ回路の無体な破損が回避されたことで、月城結衣の肉体消耗度が正確にコントロール可能となり、「いつまで稼働させ、いつ解放するか」という個体管理のロードマップをデータに基づいて策定できるようになった。今後は他3名の魔法少女（青葉さくら、焰麗華、黄金井美月）に対しても本親密化手法を応用し、全棟における抽出プロセスの最適化を図ることが推奨される。

※本資料は怪人協会内部の機密研究データです。許可なき複製・第三者への開示を禁じます。